

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(4/4)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区(岡山県)	正	3.1	2.8  <u>進捗度</u> ・水島港の輸送効率改善による貨物取扱量  91%  ・企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保  0%	3.7  <u>規制の特例等</u> ・回送運行効率化事業  等  <u>財政支援等</u> ・水島港ハイパーロジスティックス港湾推進事業  等  <u>地域独自の取組</u> ・高圧ガス保安法に係る保安検査報告書の提出期限の延長  等	3.0	<p>・企業間連携による高効率・省資源の実施については、ユーティリティ共同化モデル整備、オフガスハイウェイ・水素ハイウェイ広域整備事業など、ハード面での投資・整備が予定通り進んでいる。これらが機能し、コンビナート全体の優位性を高めるまでにまだ時間がかかるものの、当初からコスト削減目標が着実に達成されている点が評価できる。</p> <p>・評価指標(3)成長分野の企業立地件数について、4年間ゼロという実績は極めて残念である。背景の分析を十分行うとともに、改善に向けて対応を考える必要がある。なお、現状では水島地区での既存企業の拠点工場化と、玉島地区での新規成長企業の集積を進める方向で見直すこともあるのではないかと。</p> <p>・規制緩和に積極的に取り組もうとする姿勢は高く評価できる。ただし、地域独自の取り組みとして立地につながっているという説明は数値目標(3)-①と矛盾しており、必ずしも説得的ではない。</p> <p>・地域独自の取組が多数行われていることは評価できるが、特区との関連が見えにくいものもある。特区との関連が明確なものに絞って報告すること、関連の見えにくいものについては明確になるようより具体的な説明をお願いしたい。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。